



2019年12月5日

[質疑応答要旨] 2020年3月期第2四半期決算説明会
2019年11月15日(金)開催

Q : 2018年12月に買収を完了した欧州事業の Post Merger Integration (PMI : 買収後統合プロセス) の進捗状況と、欧州域内の今後の成長シナリオを教えてください。

A : 順調に進めています。既に取り組んでおりますが、旧 Praxair のベストプラクティス (生産性の改善活動、高い採算性等) を吸収していくことで、当社グループとしての総合力をさらに高めていきます。また、Praxair からの分離、そして大陽日酸への統合を着実に進めていながら、グループ総合力向上のためのプロジェクトを推進していきます。

Q : 今般の大型買収の際に、大規模な有利子負債を調達しました。この結果、当社の財務健全性は低下しましたが、今後の投資方針と株主還元方針を教えてください。

A : 期待リターンが確実に見込める優良な投資案件であれば、前向きに検討したいと考えておりますが、将来の財務健全性を考慮した上で判断することになります。また、株主還元では、創出する営業キャッシュフロー、事業環境の見通し、財務健全化のバランスを考慮しつつ、安定配当を進めていきます。

Q : 国内ガス事業では、電力費や物流費等によるコスト上昇要因で収益性が低下しているというご説明でした。欧米では、合理的なコストは価格転嫁できる商習慣があると聞いていますが、国内でのガス販売価格に関する考え方を教えてください。

A : 2019年5月に、物流費の上昇によるガスの価格改定について皆さまにご案内いたしました。お客さまからは、足元の働き方改革、人手不足という当社の事業環境について、一定の理解は得られてきていると理解しています。物流費抑制のための自助努力でコストダウンを進めながら、一部のコストをお客さまにご協力いただくかたちで、ご負担いただけるように、営業現場で丁寧に説明しているところです。

Q : 2020年3月期の設備投資計画が、2019年5月のガイダンスに比べて、今回の修正予想で減額となっておりますが、設備投資を見送る等の動きがありましたか。

A : 投資案件が減少しているわけではなく、お客さまの事情で、投資のペースを落としていらっしゃるかと理解しています。

Q : 近頃、コーポレートガバナンスの観点から、三菱ケミカルホールディングスと当社の親子上場について関心が寄せられています。三菱ケミカルホールディングスとの関係性に変化はありますか。

A : 当社は、資本業務提携関係の下、三菱ケミカルホールディングスのグループの一員となりましたが、引き続き上場を維持し、経営は独立しています。出資比率等、現状からの変化は無いと理解しています。

以上